

# ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどうした事でしょう」)

## ナイーサンのおかげある話 〜 老いと私 〜

「まだまだ若い！」と豪語する方、多いです。そういう気概はとっても大事だと思っ

も取れる内容もありました。また、知人の祖母の様子では、娘が母に色々と老化防止で何

返しては変更点は更新すること。デジタルツールの普及で、IDやパスワードも大量に

三年前に母が亡くなり、月一回、兄と一緒に田舎の実家に帰っています。墓参り

父は元々、大工でしたので簡単な棚や踏み台や手摺りなど作れるのに母がいく

今も親子の確執はどうにもならないのかと思う日々が続いています。父の事は現在、仕事を

先日のヤフー記事で、九十三歳の最年長マクドナルドのスタッフが紹介されてい

ほど足りない話もありました。人生への不安と希望が入り混じる状況は、年代ごとに

あると思いますが、先述の事故を経た私は、ひとつの答えを取り組みを始めました。それは、早々にエンディングノートを書き終えており、毎年見

子供の務めとして今は、実家に帰っていますが、帰る前日にストレスのせいか体調を崩します。

色々な夫婦の形はあると思いますが、両親のようにはなりたくないと思ひ、私が結婚に対して求めた第一条件は男女平等でした。

言葉の暴力を受けながら黙って尽くしていた母は、いつ何が起るかわからない年老いた父、を老人ホームに入居させたいのになかなかオーケイの返事がもらえません。

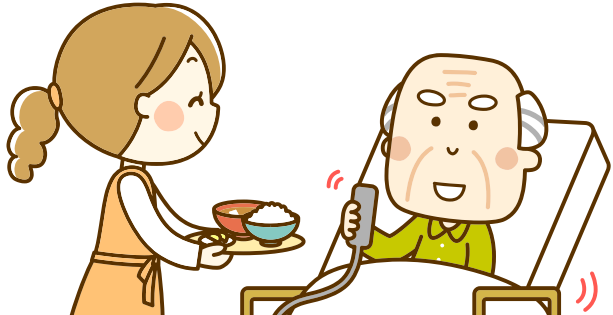


(帖)

## 回想『血のつながり』

父の事は現在、仕事をしているのですが、定年を迎える来年はどうすべきか、私の一番の悩みになっています。

(百)





### ユーミンと私とヨコハマ

#### ライブに行ってきた!

久しぶりにユーミンのライブに横浜まで行ってきた。ユーミンのライブは高校生の頃から何回となく行ってきたけど、いつも市民文化ホールクラスの所。初めての(ユーミンでは)横浜アリーナ。仕掛けも大がかり、真ん中に海賊船! 炎が揺れて!

年甲斐もなく興奮している自分にビックリ(笑) 来年1月に古希を迎えるとは信じられない程のパワフルで優雅なステージ。 1曲ごとに様々なシーンが思い出されて、中学生の、高校生の、社会人の、結婚してからの、母になってからの、その瞬間瞬間の私がフラッシュバック。

多分、あの会場にいた沢山の人がそれぞれの思いでに浸りながら過ごしていたと思う。夫婦で、親子で、友達同士で、平均年齢は多分60歳以上(笑) 私が最初に聞いた曲は多分「あの日に帰りたい」。小学生の私は歌詞の意味も分からずに歌っていたと思う。

好きな曲のベストテンをと言われても困ってしまうほどユーミン大好き……。でも今回のライブでは「魔王の誘惑」が久しぶりに聞けて嬉しかった。余韻に浸りながら娘と綺麗な月を見ながら歩いていてふと、私3歳まで横浜で暮らしてたんだなあと思ひ……。三月に亡くなった母を想いだした。23日は母の月命日。

ずっと前、娘が幼い頃、母と私と娘の3人で歩いた横浜の街を今夜は娘と2人で歩く。ユーミンの曲を口ずさみながら寂しいような懐かしいような、何とも言えない気持ちで胸がいっぱいになり、気づいたら涙がぼろぼろこぼれてました。

佐賀、福岡、大阪とチケットが取れずまさかの横浜だったけど……久しぶりのユーミン。久しぶりの横浜。 1泊2日の強行軍。行けて良かった。

付き合ってくれた娘に感謝。快く行かせてくれた主人に感謝!



### いんちきクライマーが征く!

#### 「行騫山 雌岳(むかばきやま めだけ)」編

行騫山。延岡市の西方、北方町との境の山で、可愛岳から丹助山に至る行騫山地の中心をなす山です。

全山に奇岩絶壁がそそり立ち、頂上は東岳(雌岳)、西岳(雄岳)と呼ばれる2つの岩峰からなっていて、その遠望が行騫(むかばき・昔の武士が狩猟、騎乗などに際し、腰部から脚部にかけて着用したもの)の形に似ていることに由来しています。

眺望が良く、人気のあるのが雌岳。今回はマイナーな雌岳に登って、それからあとの行程は体力と相談と、ゆるっと計画を立てて、行騫神社の横から入山し、暑いぜ。やはり夏に低山はこたえます。体が重くて、超スローペースです。何人にも抜かれつつ、滝が見える橋へきました。やっとここでモチベーションがアップ。

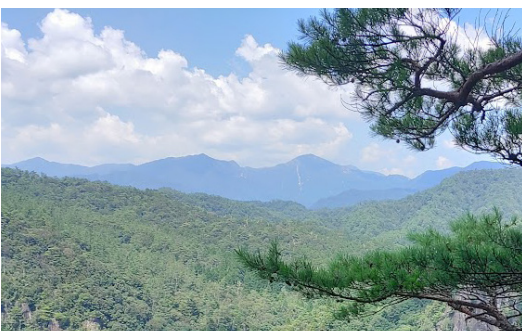
行騫の滝は、「日本の滝百選」に選ばれているほどの名瀑で、絶壁を静かにつたう布引の滝は実に壮観です。日本武尊(ヤマトタケル)がアツプ。



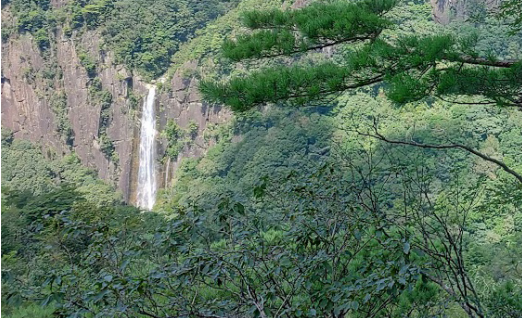
トタケルノミコト)が、熊襲征伐の折、この滝を見て、「布引の矢筈の滝を射てみれば、川上たける落ちて流れる」と詠じたそうです。



分岐を雌岳方面へと向かいます。急に誰も人がいなくなりました。マイナールートです。誰もいない静かな道を粛々と登るのみです。これはこれで中々に充実して楽しいのです。このぎりのように続くアップダウンを繰り返しつつ高度を上げていき



ます。疲労が徐々に蓄積されていきます。ちよっぴりハートが折れかけてきた時に、左のはるか下に行騫の滝を発見。なるほどこうなってるのか。滝つぼ側から見上げた事しかない行騫の滝の上は、こんな感じなのか。おもしろい。モチベーションのゲージは復活していきます。なんと楽しい道じゃないですか。いいですねえ。朝飯も食べずに登っているの、こらで小休止しつつカローリーメイトをモグモグ。このあとも、岩の上を伝って歩いたり、楽しませてもらうつつも、しかし、山頂はどこ? まだ高い所があるの? もうすぐお昼になっちゃうんですけど。雌岳みたいに、グングン登ってポンと山頂に飛び出すのではなく、ジワジワと地味に山頂へ植林の間をぬって到着するから来る人も少ないのかなあ。あまり感激のない山頂ではありました。木々に囲まれた小さな広場に、雌岳のプレートが立っています。(賢)



### 編集後記

『希望名人ゲートと絶望名人カフカ』という一冊を紹介します。ともに西欧の著述家・小説家で、名前くらいは聞いたことがあるのではないのでしょうか。

(ゲート曰く) 「希望は生きるのを助けてくれます」

それに対して (カフカ曰く) 「朝の希望は、午後には埋葬されている」

どこまでも前向きなゲートと、どこまでも後ろ向きなカフカの言葉を前にして、あなたの心に響くのはどちら? 絶望も希望も表裏一体、元気の無い今の世の中には、腹の底では沈んでいても、ウソでも希望を声にしたいもの。

ゲートはどんな言葉を差し出してくれたのだから、カフカはどんな言葉を残してくれたのか、希望を語り、絶望を語り、今の自分にピッタリなものを探してみるのも、きっと楽しいと思います。時に学んで、これを習う。楽しからずや。(賢)